

3月13日～19日は

日光市男女共同参画週間です!!

市は、平成20年3月15日の「男女共同参画都市宣言」以降、男女が共に参画できる社会づくりに向けてさまざまな取り組みを進めています。

この「男女共同参画都市宣言」を記念して、毎年3月に「日光市男女共同参画週間」を設けています。今年は3月13日(月)～19日(日)がその期間に当たります。男女とも職場や地域、家庭でそれぞれの個性と能力を発揮できる「男女共同参画社会」を実現するためには、皆さん一人一人の取り組みが必要です。この機会に「男女共同参画」について考えてみませんか。今回は、「世界から見る日本の男女共同参画」をテーマにしました。みんなで一緒に活力ある「日光市」を築きましょう。

くわしくは 人権・男女共同参画課 男女共同参画推進係 ☎ 21-5148

♡子育て期にある男性の家事・育児時間の国際比較

家事・育児などの家庭生活において、男性の十分な分担が得られなければ、働く場面における女性の活躍を妨げることになります。日本の育児期にある夫の1日当たりの育児・家事関連時間は1時間程度であり、他国と比べても短いです。

このため、男女がともに家事・育児などの家庭生活における責任を果たしながら、職場においても貢献していくことのできる社会の実現が求められています。男性の意識改革や育児休暇など、男性による両立支援制度の活用を推進することにより、男性の家庭生活への参画を促進することが重要になります。

♡フィリピンでは

フィリピンは、世界における各国の男女格差を測る指数であるジェンダーギャップ指数で144カ国中7位と上位にあります(日本は111位)。JICAボランティア青年海外協力隊として、フィリピンで2年間活動した星野由紀さん(市国際交流協会事務局)に、現地の女性の活躍や男性の家庭での役割について伺いました。

フィリピンにおける女性の活躍

フィリピンでは、観光地のホテルやオフィスビルなど、女性はいたるところで活躍しています。もちろん人それぞれですが、フィリピンの女性には積極的でとても明るく、前向きな人が多いように感じます。

日本に比べ貧富の格差が大きいフィリピンですが、裕福であればあるほど女性が働いているように思えます。

私の職場は学校でしたが、先生の多くが女性でした。校長先生や同僚も女性で、校長室ではよく先生の子どもたちが遊んでいました。産休の制度は日本と同様ですが、出産後は職場に子どもを連れていくということとは日本ではなかなかできません。母親の先生が授業中のときは、他の先生が代わりにミルクを与えている、ということもあります。

フィリピンの女性が安心して働いていられるのは、家族や友達以外にも同僚や近所の人、親戚など、周りの人全てが助けしてくれるからだと思っています。

女性が一家の大黒柱

フィリピンは日本という「一家の大黒柱」がお母さんである

ことも珍しくはありません。私のホストファミリーも、お母さんは仕事で平日の昼間はほとんど家にいません。このため昼食、夕食はお父さんが作っていました。

フィリピン人は家族を大切にし、親戚づきあいもとても親密です。コミュニケーションの時間が多いので、みんなで困っていることを話し合い助け合っています。

フィリピンの人々は、「女性だから」「男性だから」ということは考えず、みんなが自分のできることをしていました。



星野さん(左から3番目)とホストファミリー